

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立中央聴覚支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	・ 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 ・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信
計画名	「つながろう みんなと 飛び出そう、社会へ」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	子どもたちの学ぶ力の育成とキャリア形成をはかり、変革する社会で生き抜く力を育む。 (1) 将来の自己実現をめざしたキャリア教育に取り組み、自主性・社会性を育む。 (2) 知的好奇心を刺激し、子どもたちの学びへの意欲の向上を図る。
事業目標	<p>聴覚支援学校では、授業や行事等において、子どもたちの聴覚障がいの状態に応じた視覚的な情報保障が重要である。本校では、手話での説明に加え、ICT 機器の活用により、文字、音声、画像を統合的に発信し、子どもたちの個々のニーズに合わせて情報を獲得している。 (文字情報システムによる緊急時放送や、電子黒板やタブレット端末等を活用した授業・HR 活動等)</p> <p>そうした中、遠隔コミュニケーションロボットやオンラインを活用することにより、さまざまな進路実態を知り、自らの将来像を描きやすくし、日々の学習意欲の向上につなげたい。また、固定化された学校内だけの活動にとどまらず、オンラインやロボットを通じて他校との交流を深化させる。さらに、オンラインによる合同授業を実施し、初めて関わる子ども達とテーマを決めた意見交換をすることで視野を広げ、物事を多面的、多角的に捉える力を伸ばすとともに、自らの学びを地域社会に情報発信する力を育む。</p> <ol style="list-style-type: none">ICT 機器の活用や視覚支援を充実させ、「見てわかる授業」を展開することで、児童・生徒の言語力を高め、表現を豊かにしたり、論理的思考力を高めたりする。遠隔コミュニケーションロボットを活用し、卒業生の活動に触れたり、さまざまな職場体験を行ったりすることで、自己の将来像を描きやすくし、キャリア発達を支援する。継続的してきた学校間交流を発展させ、オンライン等を活用しながら、多くの人と意見交換を行う合同授業を実施し、SDGs などテーマを持った活動に共に取り組み、幅広い仲間とつながる。同世代のみの交流にとどまらず、自らの学びを地域や社会に発信し、校内外を越えた豊かなコミュニティを形成する。
整備した 設備・物品	電子黒板機能付き超単焦点プロジェクタ（壁取付式）、電子黒板 kubi テレプレゼンスロボット、液晶ペンタブレット、ペイントソフト、マグネット式スクリーン、160 インチスクリーン

<p>取組みの 主担・実施者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチーム 首席、情報教育部長、進路サポート部長、各学部主事、有志 ・実施者 学部でのまとまりを基本し、学年や学部の子どもたちの活動に関わる全ての教職員。
<p>本年度の 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アブロードインターナショナルスクールと日本手話やアメリカ手話をテーマに交流発表（英語と日本語で交流）、奈良県立ろう学校、和歌山県立和歌山ろう学校とは遠隔コミュニケーションロボットを使用してオンライン交流や合同学習、福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校、府立咲くやこの花高等学校とは対面で交流、合同学習を行った。初めて交流を行った学校が複数ある。交流先に合わせてテーマをSGDsから「答えのない問いに向き合おう」に変更し、情報を整理して相手に伝えたり、発言を結びつけて話し合ったりする活動を行った。 ・新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、対面での講演、見学等が可能になったため、直接講師を学校に呼び、対面型の講演が可能となった。各学部で、おなじ聴覚障がいをもつ成人や卒業生を呼んでロールモデルによる講演会、先輩ろう者を囲む会などを行った。 ・保健活動、防災等に関する地域的な取組みを行った。児童・生徒の製作物などをHPに掲載、文化祭、作品展で掲示。大阪府立学校保健研究発表大会で、中学部生徒が手洗い指導の取組みを発表。また本校の所在する区民祭りで、寄宿舎の舎生たちによる太鼓演奏の発表を行った。 ・講師を招聘し、教職員向けICT活用方法の研修を全学部または各学部で開催した。 ・児童・生徒への授業アンケートの分析と情報共有（7、12月）学校教育自己診断の分析と情報共有（12月）を行った。 ・各学部の教員による「見てわかる授業」をめざした授業研究を14回（うちICTを活用した授業研究9回）、また情報共有を行った。 ・プロジェクトチーム2年めの検証、改善に向けての検討、活用方法例の収集を行った。
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 ・支援学校における地域連携と外部への情報の発信
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上について……………（○） <ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器の活用や視覚支援を充実させ、「見てわかる授業」を展開するために、教職員の研究授業を14回、講師を招聘しての研修を全校あるいは複数学部で3回、各学部で1回ずつ行った。児童生徒・保護者アンケートで、質問項目「授業が分かりやすいか」に対して、肯定82%（前年度より3%増加）の結果を得た。 ②卒業生の活動に触れたり、講話を聞くことができた。また各学部でさまざまな職場見学や体験を行い、キャリア発達を支援した。 ・支援学校における地域連携と外部への情報の発信について……………（◎） <ul style="list-style-type: none"> ①継続的してきた学校間交流を発展させ、オンライン等を活用しながら、多くの人と意見交換を行う合同授業を実施した。今年度行った外部との交流は対面オンラインを含めて小学部2校、中学部4校、高等部2校と回数が増え、幅広い仲間とつながることができた。児童生徒アンケートで質問項目「他校や地域との交流が楽しい、世界が広がった」に対して、肯定81%の結果を得た（前年度より1%増加）。 ②大阪府立学校保健研究発表大会で中学部が発表したり、区民祭りで寄宿舎の舎生たちが太鼓を演奏したりして、自らの学びや活動を地域や社会に発信した。

次年度に向けて

- ①引き続き、ICT 機器の活用や視覚支援を充実させ、「見てわかる授業」を展開するために、教職員の研究授業、講師を招聘しての研修を進めることで、児童生徒の言語力を高め、表現を豊かにしたり、論理的思考力を高めたりする。
- ②遠隔コミュニケーションロボットをさらに活用し、卒業生の活動に触れたり、さまざまな職場体験を行ったりすることで、自己の将来像を描きやすくし、キャリア発達を支援する。
- ③継続的してきた学校間交流を発展させ、また新しく始まった交流の取り組みの継続と発展に努める。オンライン等を活用しながら、多くの人と意見交換を行う合同授業を実施し、活動に共に取組み、幅広い仲間とつながる。
- ④同世代のみの交流にとどまらず、自らの学びを地域や社会に発信し、校内外を越えた豊かなコミュニティを形成する。
- ⑤ICT を活用した公開研究授業を4回行う。生徒の活動発表を公開する場を設ける。

3. 事業費報告

今年度事業費総額	70,000	円
----------	--------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額	
	1 報償費		1	講師謝礼	¥20,000	1	¥20,000
		2	講師謝礼	¥20,000	1	¥20,000	
		3					
						小計	40000
2 旅費			1	講師旅費	¥30,000	1	¥30,000
			2				
		3					
					小計	30000	
					合計	¥70,000	